

■（１８）センター試験は厳冬の風物詩！

大学入試センターの試験日にはなぜか雪がよく降る。今年も大雪で電車が遅れ、遅刻してしまった受験生が出た。当の受験生は試験目前に余分な試練に立ち向かった気分だろう。

朝日新聞がセンター試験を伝えたのは１月１５日の夕刊１面から。その１面は実は全国に１２種類あった。内訳は首都圏と札幌周辺で各３つ、関西圏と中京圏、福岡周辺が各２つだ。福岡では同日昼過ぎに突発の重大ニュースがあり、臨時に１つ追加している。

なぜ、同じ１面がこんなにあるのか。朝日新聞は東京、大阪、名古屋、福岡、札幌に編集拠点を置き、各地域に合わせた紙面を作っている。原稿の締め切り時間は、配達すべき時間から逆算するため、拠点から遠いほど早くなる。その結果、拠点から同心円で切り取るように、配られる新聞の中身が変化している。さらに遠方には朝刊だけの地域もある。

この仕組みが時々、電車内などで奇妙な光景を引き起こす。広げられた同じ朝日新聞なのに中身が違う！ネットの世界では体験できない「手作り感」とは言い過ぎでしょうか（山）